

November / December
2021 No.14

A Newsletter from SCGO-JSOG Project
on Women's Health and Cervical Cancer

カンボジア 女性のヘルスプロモーションを通じた 包括的子宮頸がんサービスの 質の改善プロジェクト

JICA 草の根技術協力事業(草の根パートナー型)

PROJECT FOR IMPROVING THE QUALITY OF
COMPREHENSIVE SERVICES FOR CERVICAL CANCER

第 20 回カンボジア産婦人科学会シンポジウム(女性健康セミナー) ハイブリッド開催

11月27日、第20回カンボジア産婦人科学会(SCGO)シンポジウムが、ホテル会場とライブ配信のハイブリッドで開催されました。日本からは関係者がオンラインで参加し、大須賀穰渉外担当理事が開会のご挨拶を述べられました。また、早川智教授(日本大学医学部病態病理学系微生物学分野)が、カンボジアから依頼されたテーマである「妊婦への新型コロナワクチン」についてご講演し、妊娠と新型コロナ感染症に関する最新のエビデンスや日本のガイドラインを紹介されました。ホテル会場には30名、オンラインには220名もの学会員の参加があり(全会員数450名の6割弱)、ワクチン接種の適正時期、コロナ陽性妊婦の分娩様式、産後の授乳方法に関する質問があるなど、関心の高さを感じました。

また、スーン学術担当理事による「子宮頸がん検診の歴史」のご講演では、子宮頸がん検診手法に関するWHO推奨の変遷が紹介されました。最新版では資源レベルに関わらずHPV検査推奨と改訂されたこと、カンボジアでも検診を広げるために検討を進めていく必要があることが述べられ、本事業の活動が期待されています。

日本産科婦人科学会は、2015年から本事業を通じて、SCGOの学術団体としての機能強化にも携わってきました。2015年当時180名程だった会員数が450名に増加し、SCGO主導でシンポジウムを開催できるようになったことは、同国の学術的発展を考える上で大変嬉しく思いました。

(国立国際医療研究センター国際医療協力局 春山 怜)



健康教育の指導者研修実施

2021年12月27-29日の3日間、健康教育を提供するSCGO医師を対象とした指導者研修(Training of Trainers, ToT)が、国立母子保健センターにて、感染対策を講じながら対面で実施されました。SCGO医師約20名が参加し、日本からは関係者がオンラインで参加しました。

1日目は、まず、現地の公衆衛生専門家による「成人学習(Adult learning)」の講義で、成人と小児の学習の違いや成人参加型トレーニングの7つの主要な原則が紹介されました。メッセージの焦点を絞る方法や参加者の注意を引くテクニックなど、健康教育提供に役立つ知識を学ぶ事ができたと思います。次に、筆者が「行動変容のためのヘルスコミュニケーション」講義を担当し、ヘルスコミュニケーションに関する研究と実践から得られたエビデンスに基づいて整理された10原則を紹介しました*1。その後、模擬演習として、参加者の1人が「健康教育提供」のシミュレーションを実施し、健康教育教材の精練のために作成したチェックリストを用いて評価を行いました。

2日目は、助産師約20名を招き、1日目と同様にSCGO医師の1人がシミュレーションを実施し、チェックリストを用いて評価を行いました。事業の対象である小学校教員を招くことを検討していたのですが、新型コロナウイルス感染症の影響で閉鎖していた学校の完全再開に向けた準備に忙しく、参加は叶いませんでした。そこで、医師よりも実際の対象に近い存在として助産師に協力頂くことになりました。

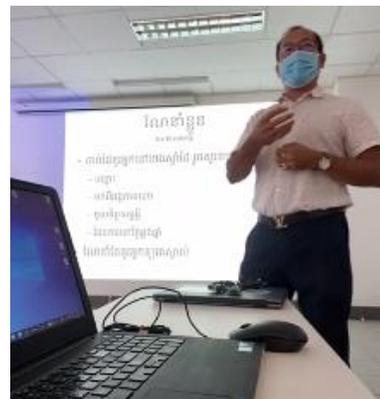
3日目は、健康教育チームのコアメンバーが中心となり、1日目と2日目の学びやチェックリストの評価をもとに、健康教育教材の精練が行われました。活発に意見が交わされ、大幅に変更があったと聞いており、現在も教材の改訂作業が進行中です。次回のニュースレターでは、ToT研修で改定された教材内容をお伝えしたいと思います。

(国立国際医療研究センター国際医療協力局 神田 未和)

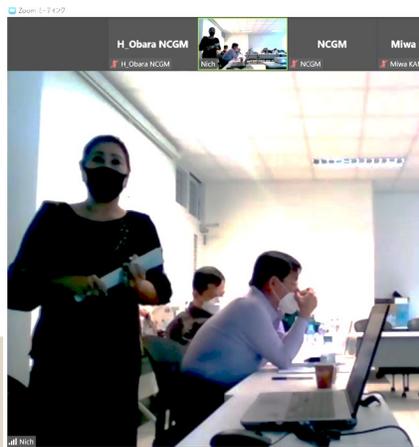
*1 奥原剛. 実践 行動変容のためのヘルスコミュニケーション 人を動かす10原則. 大修館書店. 2021



現地専門家の講義を聞くSCGOの産婦人科医ら



現地の公衆衛生専門家の講義の様子



模擬演習としてシミュレーションを実施



助産師を招いて実施された2日目の様子